



フルテックの高品位アクセサリー 最高峰スピーカーケーブルプラグに NCF採用の新設計モデルが新登場

フルテックのスピーカーケーブル端末プラグは、同社の30年にわたる歴史のなかで研究開発が重ねられてきた。国内外のハイエンドケーブルにも起用される、その非磁性ロジウムメッキの最高峰モデルCF-201 (R)とCF-202 (R)が、独自の特殊素材NCFを調合して新設計され、さらなる進化を遂げた。優れた品位と信頼性に加え、強力な制振効果と静電気対策を獲得し、一段と魅力を高めたニューモデルの音質と使用感を、福田氏が入念にチェックした。

Text by
福田雅光

Masamitsu Fukuda

Photo by 田代法生

FURUTECH CF-202 NCF(R)

¥30,360 (2個、税込)
ハイエンド・グレード バナナプラグ

FURUTECH CF-201 NCF(R)

¥26,565 (2個、税込)
ハイエンド・グレード Yプラグ



Specifications

【CF-201 NCF (R) / CF-202 NCF (R) 共通】

●固定リング・NCF制振材 ●ハウジング：マルチマテリアルハイブリッドNCFカーボン製 ●エンドハウジング：絶縁リングつきローレット加工 ●本体：α(アルファ)非磁性ステンレス ●導体固定ネジ：銅合金製 ●導体結線方法：ネジ止めまたはハンダ ●最大ケーブル直径：5.5mm ●付属品：2mm六角レンチ (H2.0) ×1、六角形ソケット止めネジ (M4×4) ×2個セット

【CF-201 NCF (R)】 ●コンタクトパーツ：α(アルファ)純銅ロジウムメッキワンピース構造 ●外部サイズ：φ15.2×全長約70.0mm ●質量(ネット)：約38.8g

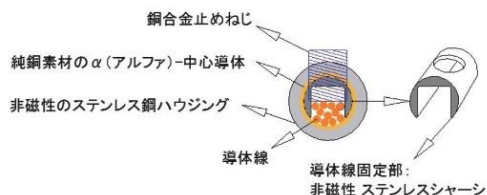
【CF-202 NCF (R)】 ●コンタクトセンターピン：α(アルファ)純銅ロジウムメッキワンピース構造、センターピンロック機構 ●外部サイズ：φ15.2×全長約60.5mm ●質量(ネット)：約33.4g

●従来のモデルを越え、バナナプラグに
高SN比で研ぎ澄まされ
十分な魅力を持つことを確認
初めに現行モデルの音の確認から
行方。CF・202 (R) を装
着してあるスピーカーケーブルは
筆者がレファレンスに使っていた
もので、ケーブルにはクリプトン
のSC・HR1500を使用。ス
ピーカー側にバナナプラグCF・
202 (R) を装着してある。解
像度が高く、極めて信頼性の高い
性能が得られていることが、レフ
アレンスとして起用した理由であ

NCF採用の新たな上位モデル
新旧での音の違いを比較試験
フルテックから、純銅ロジウム
メッキ・ワンピース構造の最高級
Yプラグ／バナナプラグCF・20
1 (R) とCF・202 (R) に、
新しい上位モデルとして、CF・
201 NCF (R) / CF・2
02 NCF (R) が登場 (2
023年9月)。基本構造は継承し
ながら、ハウジングデザインがシ
ルバーメッシュ仕上げになったほ
か、大きな特徴としては、主に制
振と静電効果を高めるNCF固定
リングを採用したことにある。こ
こでは、その音質性能の違いにつ
いて調べた。



YLag「CF-201 NCF(R)」(右)と、バナナプラグ「CF-202 NCF(R)」(左)の内部



特殊設計導体線固定構造

特別に設計された止めねじ構造によって、ケーブルの導体とアルファ純銅導体とがしっかりと接触



確実な接触を確保するため、特別に設計された二つの導体固定構造を備える

る。今回、フルテックの新しいバナナプラグCF・202 NCF(R)、YLag CF・201 NCF(R)の試聴もこのケーブルを使うので、もう少し詳しく説明しておく、導体はPC・Triple Cの0・33mmφ7本の束を6本採用。この太い素線構成が、電流による振動を抑え、混濁の少ない高い解像度を発揮している。

フルテックのこれまでの最高級

バナナプラグを装着した状態の音はどのようなものだったのか。スピーカー、B&W800D3に接続して改めて試聴した。

音はビュアに澄みきり広帯域で、歪み感がなく、高SN比で研

ぎ澄まされる。克明にして美しく、中低域は引き締まり躍動する。コントラストが強力である。このバナナプラグはNCFなしの製管だが、もう十分に魅力を引き出している。特に文句のない状態である。バナナプラグには音質面で不利なこともあるため注意してはいるが、この音を聴いて最先端のサウンドが得られる性能であることが分かった。

●NCF新モデルを聴くバナナプラグ
中低域の厚みや立体感を増し
クセなく厚い躍動で圧倒される

次に同じケーブルで、バナナプラグの新製品CF・202 NCF(R)へとつけ替える。まず、

表現力の変化は中低域の厚みに現れた。この帯域のコントラストも高める作用があるため、立体感が増している。低音の躍動は深くストロークを出しており、これも立体感を高める効果があるのだらう。中低音域で朗々と歌うテネシー・アーノルドのヴォーカルも、リアリティは10%くらい高く、また質感密度が増していることに気づく。B&W800D3のサウンドは、これが本物ではないか。厚い躍動と奥行きのあるヴォーカルに圧倒された。キャラクターはニュートラルで、クセは感じられない。バナナプラグという、わざわざこんな部分で、なんてことだ。

オーディオはこれだから怖い。しかし高域側には多少デッドな印象もある。幅広い音楽ジャンルを聴く身にとっては、完璧にオールマイトとは言えないところもあるが、聴く音楽の傾向を選べば強力な効果が得られる。

●NCF新モデルを聴く(YLag)
フラットで高い純度と解像度
情報を全て浮き彫りにする

今度は同じケーブルに新製品のYLag、CF・201 NCF(R)を装着する。YLagの音は、バナナプラグのCF・202 NCF(R)とはまったく違い、高純度でフラットな帯域特性を備え、洗練された内容である。音の情報を

全て浮き彫りにしてくるようなり、オーディオで、とてつもなく高解像度である。中高域はトランジェントに優れ、ギターは急峻に立つ。輪郭がはっきりしている。音色の透明感も高い。キャロル・キッドの「ホエン・アイ・ドリーム」は透明でコントラストが高く、とてつもなく明確である。低音は強力に引き締まる。

これは、バナナプラグCF・202(R)を装着した時の延長線上になり、さらに精度やコントラストを高めた印象である。余韻の持続していく様子がきれいで、SN比も高い。クラシック系の音楽では、主題の旋律と余韻が織りなす音楽情景の聴こえ方が変化し、魅力を高める。オーディオの楽しみが、このような部分でも左右されていることを改めて実感した。どんなパーツも、信号経路に含まれる部分は無視できない。

NCFシリーズはシルバードザインが採用されて、外觀がさらに美しくなっている。また実際にスピーカーケーブルを接続して組み立ててみると、精度の高い作りと構造にも感心する。付属している六角レンチ一本で作業することができた。

セテテテテテ

電源系

アリス系

ケーブル系

チューニング系

ソース系